

# 釧路水産試験場だより

第 4 号

昭和 41 年 3 月

随 想

「魚」

研 修 室

コンブの機械乾燥について

解 説

道東水域の底魚資源のあらまし(1)

道東浅海漁業の問題点(その2)

お し ら せ

サケ・マスの漁期前調査について

調査試験のうごき(1-3月)

試験船の動静

北海道立釧路水産試験場

## 随 想

# “ 魚 ”

川 嶋 昭

一一

寿し屋の茶わんに色々なさかなの名前を漢字でならべたものに時々お目にかかる。一杯きげんの余勢で、にぎりをつまみながらその読み方に学のあるところを披露するのも一興であるが、さかなの名前など近頃はかな書きが普通なので、あの茶わんの周囲をぐるりと完全に一周できる人はおそらく殆んどいないだろう。

最近、書きものの仕事が重なつて、少しばかり用字、用語の勉強をしてみた。ところがそんなに難解な漢字でなくても、案外私たちの気つかない読み方、書き方があることにおどろかされた。その一例を戦後、内閣訓令によつて示された当用漢字表と音訓表を用いてあげてみよう。たとえば当用漢字表にある「魚」と言う漢字を何と読むかと聞かれたら、私のように戦前に基礎教育を受けて、それで通してきた人なら、だれでも「サカナ」「ウオ」「ギョ」の三つをあげるだろう。ところが音訓表によつて教育を受けた現代の若い人なら「ウオ」と「ギョ」だけで「サカナ」とは読まない。また反対に「サカナ」と読む漢字を書けといわれたら古い教育を受けた人なら「魚」の外に「肴」を書くだろうが、現代の当用漢字表に従つて教育を受けた人なら、おそらくそんな漢字はないというだろう。なる程「魚」は「サカナ」ではないし、「肴」は旧漢字であつて、今の学校教育では教えなくとも良い漢字であるから、若い人が「サカナ」と言う漢字を書けなくとも、特に勉強だとは云えない。

しかし「魚」に対して私たちはやはり「サカナ」と読んでほとんど抵抗を感じない。そこで子供の通つている小学校の先生に聞いたら次のように教えてくれた。すなわち「魚」は学校では「ウオ」または「ギョ」と読ませることは前にものべた通りだが、「サカナ」も一般には慣用的読み方であるということも教えても良いことになつてゐるという。いつてみれば、正しい読み方ではないけれども、さりとて全く間違ひだというわけでもないということ、これを教えるかどうかは先生の考え次第であり、試験の時に「サカナ」とかなを振つた答案を○にするのも×にするのも、結局は授業の時にどう教えたかによつて変わるものらしい。

どうもキツネにだまされたような不得要領な説明であつたが、要するに現代国語教育がそれだけまだ混乱期にあると云うのが説明のオチになつてゐた。わかつたような、わからないような説明は生き物を扱う水産の世界にも実に多いが、国語の世界にもこんな混乱があつたのかと改めて認識させられた。なる程、言葉も文章もいつの間にかどんどん変化している点ではさかなと同じ生きものには違ひない。ともあれ、どんな世界でもそれなりに理くつつほい船頭さんが多くて、かえつてしろうとには理解しにくいのが現代の特徴のようである。



## コンブの機械乾燥について

### —四十年 度 浜 中 町 での 試 験 結 果 から—

水試だよりの三号では機械乾燥コンブの品質についてお知らせしましたが、本号では今年度浜中町で実施した機械乾燥試験（ナガコンブ）の内容をお知らせします。

#### 一、乾燥機の規模

乾燥機には色々な規模、型式がありますが、おのおのその目的によつて一長一短を有して居ります。乾燥機を分類しますと真空乾燥機、冷凍乾燥機、熱風乾燥機等に大別されますが、今度の試験には熱風乾燥機を使用しました。この種の乾燥機の性能で特に配慮しなければならぬ点の一つとして、乾燥室を熱風が均一に流動しなければならぬことです。今回の試験用機はこの点に留意して特殊な配風装置（南星工作所特許）を装備しており、乾燥室の大きさと熱発生装置はコンブの乾燥に便利

なように設計し、しかも他の魚貝類の乾燥にも充分使用できるよう熱風が循環する風道を付けており、その規模は次のようになっていきます。

- (イ) 工場面積一五坪（作業場を含む）
- (ロ) 機械設置面積 七・五坪
- (ハ) 乾燥室の大きさ 四〇〇×一四〇×一八〇㎝
- (ニ) 乾燥用台車 六台（乾燥折二〇枚収容）
- (ホ) 熱風循環方式
- (ヘ) 五馬力モーター 三五番シロツコファ
- ン付
- (ト) 重油燃焼量 一時間当り一八リットル

(イ) 乾燥能力 一〇時間当り製品一四四疋  
（原藻七二〇疋）  
（最高時）

尚(イ)の工場面積は一五坪の工場を使用しましたが、約一〇坪の面積で充分仕事ができます。

#### 二、乾燥の手順

コンブの天日乾燥は御承知のとおり原藻を浜に広げてから結束する迄に、幾つかの工程を経る訳ですが、機械乾燥の場合も又数工程を経なければなりません。しかし天日乾燥の場合とは大分異つてきます。

先づ試験工場の機械器具の配置は図1のようになりました。

次に各工程ごとに乾燥の手順を追つて説明しますと

(イ) 原藻工場搬入

原藻は一〇本内外の束として、おのおのコンブが玉にならないように搬入します。

(ロ) 工場内における原藻の置き方

原藻は工場に搬入されてから乾燥機に入るまで放置される訳ですが、時間的に一番長いのは約一〇時間放置され、しかも比較的室温が高くなりますのでなるべく高積みはさけ通風のできる状態に放置する必要があります。

(ハ) 切斷

原藻は先づ一束宛根から五種程を切り落しそれを図2のようなスノコ定規の上で一・三米づつに草刈りカマで切斷してゆきます。コンブが乾燥する時に縮む率を測定した結果一番縮むもので一割九分(縦の縮み)平均一割六分ですので一応、一割九分の縮みに合せて切斷し乾燥の終つた時には水検の長切規格の一〇五種になるようにしました。実際にこのようにしたものは一〇五種から一〇八種の間におさまります。

(ニ) 仕分け

切斷したコンブは根元部分と先端部分の厚味の異い別に四区分程度に仕分け折に区分して置きます。

一定の熱風を送つて乾燥して見ますと、根元部分の厚いものと葉先部分の薄いものでは乾燥度合が大きく違います。

(ホ) 乾燥

仕分けされたコンブは乾燥折に並べますが、一台車分ごとになるべく一定の厚味の葉を並列させます。乾燥温度は七〇〜七五度とし熱風は循環させずに排気してしまします。

乾燥機の乾燥効率(熱効)は燃料から発生する総カロリーと干す物から蒸発する水分の量で決定されます。普通の乾燥機は三五〜四〇%とされていますが、今回の試験では二〇〜二七%で少々効率が悪い訳ですが、高温短時間処理が目的ですのでこの点は、別の面でカバーされています。

コンブの水分は水検規格で二〇%以下になつて居りますが機械乾燥のものは一五〜一八%が主体となります。

普通生コンブは水分が八三〜八八%程ありますので生コンブ一〇〇%を乾燥すると云うことは水を八五%内外蒸発させるということになります。

以上のようにして乾燥されたコンブは貯蔵して置き結束する時に干度を調整して製品となります。

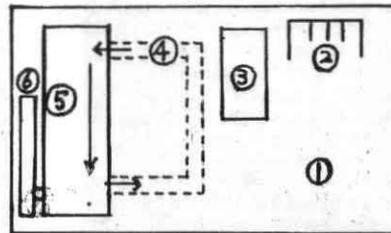
三、操業状況と収支

(イ) 操業状況

浜中漁協の組合員一人(二人乗)を選定し

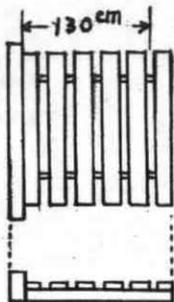
旗とは関係なく出漁し、干場は一切使わず機械だけで乾燥した場合と、従来通り天日乾燥した(一人乗)操業内容を比較して見ますと表1のようになります。

図1 工場配置



- ①原藻置場
- ②仕分け枱
- ③場上げ台
- ④台車位置
- ⑤乾燥室
- ⑥熱風発生炉

図2



尙機械乾燥に要する人員は女手二人と（なれると中学生にても可）沖乗りの男手一人を含めて三人で作業が出来ますので天日乾燥の必要人員と略々同人員ですみます。

(四) 収支

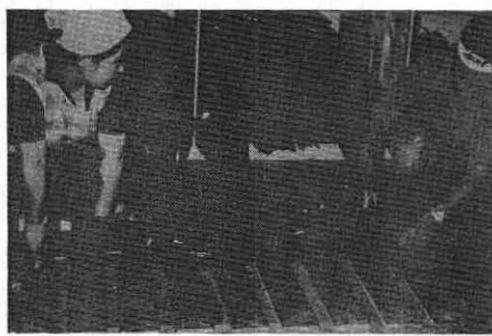
天日乾燥と機械乾燥の収支を比較しますと表2のようになります。

表のように差引き二〇万四千四百二二円が機械乾燥の方の増収となります。

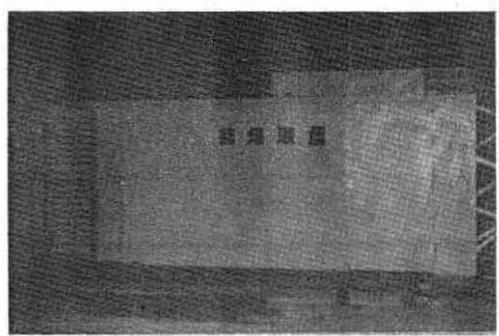
この内から機械と建物の消却費を見なければなりません。試験に用いた機械は六〇万円です。七年消却として、年八五、七一〇円となります。建物は一〇坪と仮定して坪当り二五、〇〇〇円を見ますと二五〇、〇〇〇円これを二〇年消却としますと年一二、五〇〇円、機械と合せて九八、二一〇円となり、これを引いてもまだ一〇六、二一二円の増収となります。

乾燥機的能力につきましては現在一〇時間当り四・八駄の製品を作れますが、乾燥折の改良で七・五駄迄スピードアップできる見通しを得ています。従つて四七日出漁したとすれば三五二駄迄はこの乾燥機で処理が可能となります。

以上のようなことで機械乾燥の有利なことがお判りいただけたと思います。(加工部相沢)



コンブの切断作業



試験に使つた乾燥機



乾燥室内の台車と乾燥折、この折の間を熱風が均一に流れる



葉厚別に乾燥折に並列し、乾燥室に格納する

表 1

出 漁 の 内 容 と 漁 獲 量 製品1駄 30Kg

	生産型態	① 総日数	② 出漁日数	③ ①×100	天日乾燥漁家の 出漁日数に対する 乾燥条件(天候)				生産駄数	総生産に 対する月別比率	一生 日産 当駄 り数	天よし 候不 順に 駄数 に	手 取 総 駄 数	干 機 に 対 し る 処 理 能 力	比 率
					良好	やや 良好	半干	投キ							
7月	天日 機械	17	4 8	23.5 47.0	3 -			1	20 31	17.3% 20.6	5.0 3.9	4 -			% 8.29
8月	天日 機械	31	11 20	35.4 64.5	3 -	3 -	4	1	51 79	44.3 52.6	4.6 3.9	2 -			- 8.29
9月	天日 機械	30	5 9	16.6 30.0	1 -		2	2	23 25	20.0 16.6	4.6 2.8	2 -			- 5.95
10月	天日 機械	23	10 10	50.0 50.0	10 -				21 15	18.2 10.0	2.1 1.5				- 31.9
計		98	30 47	30.6 47.9	17 -	3 -	6 -	4	115 150		平均3.83 均3.19	8 -	107 150		

註 良好……………1日で乾燥が終了する天候  
 やや良好……………1日では乾燥が終らず、翌日に再乾燥しなければならない。  
 半干……………乾燥に2日間を要し、しかも2日目にコンブはハナサキ現象を起し  
 極端に等級落ちする。  
 ・乾燥機乾燥能力 10時間当り製品144Kg(4.7駄)

表 2

## 収 入

天 日 干 燥					機 械 干 燥				
等級	駄数	比率	単価	金額	等級	駄数	比率	単価	金額
1	21	19.6%	6,320	132,720	1	37	24.6%	6,320	233,840
2	16	15.0	5,056	80,896	2	39	26.0	5,056	197,184
3	33	30.8	3,792	125,136	3	56	37.3	3,792	212,352
4	37	34.5	2,528	93,536	4	18	12.0	2,528	45,504
計	107			432,288	計				688,880

## 支 出

項 目	数量	単価	金額	項 目	数量	単価	金額
干場用干草	400貫	100	40,000	重油	7,000ℓ	14	98,000
干場借料	300坪		15,000	動力料			5,170
				動力基本料			4,000
計			55,000	計			107,170



## 道東水域の

# 底魚資源のあらまし(1)

近年沿岸漁業の振興対策が叫ばれ、沿岸漁業構造改善事業などによつて具体化しておりますが、この沿岸漁業と対応して沖合漁業があります。漁業の始まつた頃は、沿岸漁業で占められておりましたが、この水域は曳網漁業が中心となつておりました。しかし漁業が発達すると共に、沿岸と沖合にわかれて異なる漁業形態となつて現在におよんでいます。

この沖合漁業の中で、沿岸漁業とはほとんど共通した資源を利用している沖合底曳網漁業がどんな資源を利用しているのか、その概略について述べてみます。このことは「将来沿岸漁業がどのように発展していつたら良いのだろうか」という問題に対し、参考になると思います。

この水域は、他の水域の陸棚と異なつて岩礁が発達しているのが特徴的です。この岩礁の間をぬつて底曳網の漁場が形成されています。この漁場面積は、約二、四八五平方軒で水深九〇〇m以浅の魚が生活している水域の三〇〇程度に当つています。漁場の水深は、日本海やオホーツク海の三〇〇m以浅という

ことにくらべますと非常に深く九〇〇m程度にまでおよんでいます。

この海域では、日本海やオホーツク海とは反対に、沿岸域は親潮系の冷水塊によつてしめられており、その沖合に黒潮暖流があつて、それが千島列島とはほぼ平行して蛇行し、冷水塊との間に前線を作つて居ります。この前線は春から夏にかけて北上し、九月に最も接岸してその後再び遠ざかつています。この前線附近では植物プランクトンの生産が盛んで、これに動物プランクトンが密集し、サケ、マス、サンマ、サバなどの浮魚類の好適な索餌場を作ります。しかし底魚の生活もまたこの冷水塊と深い関連があるものと考えられます。この海域は底性有機物を作る栄養の高い流れが大きく、底接性の食物をとる、エビ類、カレイ類、アカモノ類が深い所まで勢力を伸ばし、底曳網漁業にとつても重要な資源となつています。

釧路前浜に深みが接近した、通称「ヘッリ」とよばれるところは、古くから釧路底曳のドル箱漁場として利用されていた所で、ここに

は各種の魚の幼稚魚も集つて発育します。これは道東陸棚全体の生物的生産の中心的な役割を果していると考えられます。その仕組みについては、まだ明らかになつておりませんが、當場では、ソウハチカレイ、エビ類をモデルに、この解明につとめています。

底曳網漁獲物の魚種組成は、大まかにいつて、スケトウダラが四六％、タラ一〇％、バカレイ八％、アブラカレイ一％、その他のカレイ類七％、赤物類が五％となつており、室蘭に次いで複雑な魚種組成になつておりますが、以西底曳に比べると単純です。オホーツク海の底魚類の社会を北方的（魚種が少ないので）としますと、この水域は南方的（魚種が多いので）といえます。又この水域には、シシヤモ、コマイなどの特産魚種もすんでいますし、漁業の対象にはなりません。アバチヤン、クサウオなども特産種としてあげられます。このことは海底地形が複雑なために生活のしかたを異にした多くの種類の魚を受けいれる事が出来る事や寒暖流の消長がここにすむ魚の組成変化をもたらして、分化して来た歴史がかくされているのではないかと考えられます。又岩礁のために、漁獲の影響を受けやすい魚が保護され、資源の維持に役立つといえます。

(漁業資源部 坂本)

# 道東浅海漁業の問題点 (その2)

## ◇ ホツキガイ漁業

十勝、釧路、根室支庁管内のホツキガイ漁業は歴史が古く明治末期から行われ今日に及んでいます。

従来、この漁業は手巻き、足踏み巻きの非常に労働力を必要とする漁業で、それに加えて無動力船のためこれらの管内では漁場の利用も限定され十分に資源の活用がされず、いままでこの漁業が最近(昭和三八年以降)にいたり全道に先きがけて現在では十勝支庁管内(広尾、大樹)、釧路支庁管内(白糠、浜中)が動力巻きの近代漁業に移行し計画生産を確立しています。

すくなくとも、この動力巻き許可によつて十勝、釧路の両支庁管内では漁獲量が急増し、より以上の漁業に発展しています。しかし、漁獲量の増大の反面、消流についても充分に対策をたてておかなければ価格の低下をまねくおそれが出て来ます。

この漁獲量の伸びは動力船操業(機械巻き)によるもので次の利点と意図があげられます。

①労働力をあまり必要としない楽な操業になる。

②漁場の利用範囲が拡大される。

③計画生産ができる。

④未利用漁場の開発が可能。

このように十勝、釧路管内ではホツキガイ資源を充分に活用する一方において資源維持のために地先漁場にあつた増殖対策として移殖、漁業の制限、漁場管理を積極的に行なつています。しかしながら動力船の動力(機械)巻き操業は簡単にどの地先でも出来るものでなく、その条件としては漁場調査にもとずくところの漁場価値(資源等)の正しい判断と今まで以上の強力な資源管理、さらに採算性についても充分に考慮しなければなりませんので、これから動力巻きに移行しようとする根室管内でもこれらの点に良く注意し、計画をたてていただきたいと思

(増殖部 寺井)

動力巻移行後のホツキガイの漁獲量

上段の数字は数量・kg  
下段の数字は金額・円

	広尾	白糠	釧路	浜中
昭和37年	5,282.0	230,800	414,000	143,000
	2,864,392	14,149,200	24,642,000	6,908,000
昭和38年	137,485	273,400	77,500	327,000
	10,747,493	21,445,000	5,334,000	16,335,000
昭和39年	281,030	350,404		733,000
	26,115,184	32,974,534		42,316,000

## サケマスの漁期前調査について

日ソ漁業交渉が三月一日からモスクワで始まつております。今年はいくつかのマスの不漁年に当つておるので相当難しい問題をやらせているように考えられます。

しかしサケ・マス調査は、日ソ漁業交渉の結果などに関係なく、今年も四月十日から始まり、調査船は、当場所属の光洋丸の他流網調査船七隻、はえなわ調査船三隻をもつて北緯四八度以南海域の海洋観測および分布生態調査を実施する予定です。その結果は、毎日調査船から無線連絡によつて私共には通知されず、これらの資料を分析し今年の漁況と漁況について、具体的な予報を一般漁船の出漁前に実施し、各地で漁況説明会を開催したり、漁況速報などにより漁業者の皆様にご知らせ致しますので利用して下さい。

サケ、マスの今年の漁況について、現在の予想では、シロサケ(トキシラズ)は豊漁年の傾向をもち期待をもちます。しかしカラフトマスは、全体的に不漁年としての傾向をもち沖合(東経一五〇度以東)の海域で特に著しいと思ひますが、道東沿岸寄りの西方海域では逆に豊漁年としての傾向が現われるのではないかと考えております。小型船は、操業海区が南に拡がっておりますので期待できるのではないのでしょうか。サケ、マスが沿岸に来遊するか、あるいは沖合を通過するかは海況に影響される点が大いなので、今後の海況の推移には十分注意するようにして下さい。特に今年には、沿岸海域を主体に調査船を一隻配船する予定です。小型船の漁業者の方々にもお役に立つのではないかと考えております。

# 道東地域普及員との試験調査打合せ会開催

◇四十一年度試験調査事業を無駄なく  
行なうために◇

二月二十四日、二十五日の二日間、当場会議室において道東管内の沿岸改良普及員、水産技術普及員その他現地の普及活動や試験調査の指導にあたつての方々十八名に参加していただいて、普及員の四十一年度試験調査活動をどのように進めて行くか、またその場合、特に水試の事業計画と共通するものはどのような協力の方法をとつていくかと言うことを中心に、熱心な話し合いを行いました。

まず第一日目は水試側から現在予算要求中の四十一年度事業計画の骨組みについて説明を行なつたあと、各普及員から計画に対する意見、希望、質疑など自由な発言をもらつて、各部の事業に多くの有益な助言を受けました。

これらの水試側事業計画については、現在道議会において予算審議中ですので、新年度において皆様に概要をお知らせする予定です。第二日目は普及員の方々から、地域の問題

点と試験調査関係の普及計画を説明していただき、その中から特に重要と考えられる項目について、仕事の内容を出来るだけ具体的に検討し、水試の指導と共同調査の必要なものは今後さらに現地と打合せて細かな計画をつくることになりました。各地域の重点事業として次のようなものが話題になりました。

## ◇根室支庁管内

### 根室市

- (1) 沿岸魚族資源調査
- (2) 風蓮湖開発調査
- (3) ホタテ貝資源調査

### 別海村

- (1) スルメ、ホタテの人工乾燥
- (2) 野付湾風蓮湖の開発

### 標津町

- (1) 大型魚礁調査
- (2) 加工技術研修会

### 羅臼町

- (1) イカ釣機械企業化試験
- (2) 昆布乾燥機試験
- (3) 浅海増殖効果調査

## ◇釧路支庁管内

### 釧路村

- (1) ウニ資源調査
- (2) コンブ礁効果調査

### 浜中町

- (1) ワカメ養殖試験
- (2) コンブ礁効果調査

## ◇十勝支庁管内

### 広尾町

- (1) カレイ刺網企業化試験
- (2) ホツキ貝漁業調査
- (3) コンブ礁効果調査

### 大樹町

- (1) ホツキ貝漁場調査

### 豊頃村

- (1) サケマスを対象とした公害対策
- なお、白糠町沿岸で行なつているタコ礁試験、エビ、毛ガニ、ウニなどの資源や漁業についても多くの話題が出されました。

この会議は元来、普及員の研修行事として計画されていたものですが、たまたま四十一年度の事業計画時期と重なつたために以上に述べたような会議内容となりました。しかし今後は、対象をしぼつて魚種別の技術研修や調査方法の勉強会なども行つていきたいと考えております。

お知らせ

## 調査試験のうごき（一—三月）

### ◇◇漁業資源部◇◇

#### ◎ニシン調査

昨年十一月沖刺網漁業開始以来、ほとんど皆無状態をつづけてきたニシン漁況は、二月下旬以降僅かではありますが、釧路から厚岸にいたる沖合に来游をみせ、沖刺網によつて漁獲されています。しかし例年十二月、一月にはすでに漁獲されていることよりみて、出現時期は相当遅れています。

現在までに厚岸、釧路両港に沖刺網によつて約一五〇トンが、厚岸における湾内刺網および湖内の氷下待網などにより約三五トンが水揚げされています。これを昨年にくらべますと沖刺網では約 $\frac{1}{10}$ 、厚岸湾および湖のものでは約 $\frac{1}{5}$ といずれも大きく下廻っています。

漁獲されたニシンをみると、漁獲されはじめた二月下旬頃は、昨年の生残りである大型魚（四年魚）が約八〇%をしめて主体となっていました。三月にはいり、本年新しく産

卵に加わる中型魚（三年魚）が逆に約八〇%をしめ、漁獲対象の魚群がかわつていきます。精・卵巣の発育状態は、昨年とくらべると大・中型魚いずれも約一ヶ月ないし一ヶ月半遅れているようです。また成熟の度合は、未熟の状態です。

なお一、三月に道東沖合を光洋丸により海洋観測を実施した際に、魚群探知器による魚群の探索を行ないましたが魚群は非常に少なく、かつうすいものでした。また底曳の試験船釧路丸による調査においても、ニシンの混獲はほとんどみられませんでした。

以上のことから、今後の漁況は、新補充群の中型魚（三年魚）の来游出現状況に左右されますが、大きな期待をもつことは困難と考えられ、全体的に低位に推移するものと思われれます。

#### ◎漁況予報調査

道東沿岸海域の海洋観測を一月二四、二五日および三月二日、四日の二回実施しました。

その結果をみますと、一月下旬の表面水温は尺別、音別沖および尻羽崎沖に氷点下一度以下の冷たい水の張り出しが見られ、釧路沖は零度以上で稍暖かでした。百米層水温も表面とはほぼ同様の水温分布を示し、表面水温より一度前後高目でした。

三月上旬の海洋観測は過去二年より調査海域を拡大し、南は北緯四二度、東は東経一四五度一〇分まで調査しました。この結果、表面水温を見ますと距岸二〇海里以内の沿岸部では氷点下一度から零度の水帯でおおわれており、殆んど例年と変わっておりませんでした。また、大黒島沖二—三海里付近まで湾内の冷たい水の張り出しが見られました。それより沖合では、釧路南四〇海里付近の海域を中心として氷点下一度以下の水塊があり、その西側には大津沖まで零度以上の水帯が舌状に伸びていました。百米層水温を見ますと釧路の南三〇海里付近まで一度から一・五度の水帯があり、その東側には零度以下の冷たい水が南下しており、表面と同様に釧路南四五海里付近に冷たい水塊がありました。

これを昨年同期と比較しますと、一月下旬は、全般的に一度から三度低目でしたが、三月上旬は昨年並になつておりました。

◇◇ 増殖部 ◇◇

◎コンブ漁場開発試験

三月下旬に入りましたが流氷が来ないので今年のコンブ漁が期待されず。試験区のナガコンブも生長を続けツキダシコンブとなつて年令を一つ加えました。

一月から新たに若二年コンブを加え、これに標識札をつけ、三月にパンチで穴を入れ調査を始めました。一方今年新らしく芽を出した群(三月群)を二月に確認し、三月で大きいもので〇・五ミリの長さです。

二、コンブ礁効果調査

浜中町を二月一日に調査し小島に投入した三十八、三十九年のブロック各一個を揚げました。それには三年目、二年目のアツバコンブのツキダシコンブが見られました。年が若いコンブはツキダシの始まる時期が早いようです。

広尾町を二月二十日に行ない三十八、三十九年投入ブロックを各二個揚げ調査をしました。それぞれのブロックに三年生、二年生のツキダシをしたミツイシコンブが一〇〇本から二〇〇本着いていました。

歯舞の小型ブロック二個について二月一日に調査しましたが、二年又は三年目のアツバコンブでツキダシがみられましたが、末枯れ期にあたりいづれも一メートル以下でした。例年、二月が最も短かいようです。この外に新しい芽が多数着生しておりますが、これら

もアツバコンブのようでした。

③ ホツキガイ調査  
今年度の経過の概要について前号でお知らせしましたが、今までの段階では底棲稚貝が殆んど発見できなく三月下旬に再度確認の調査を予定しています。

④ 大型魚礁効果調査(漁獲試験)  
鉏路沖、大型魚礁周辺で毎月一〜二回宛、三枚網一五反を投網し漁獲試験を行なっています。

周年を通しての調査でいえることは魚礁周辺で漁獲される魚種は時期的に可成りの変化に富み五月〜九月の候に多くの魚種がかかります。その中でもカレイ類が主体です。

⑤ 海藻類の養殖試験  
詳しいことについては資料取りまとめ中です。

(1) ノリ

(ア) 今年度に調査した根室、厚岸の資料について、詳細な検討を行なっています。整理が出来次第北水試月報などに掲載するほか、本誌でも解説して行く予定です。

(イ) 根室漁協人工採苗場ではすでに春ノリの人工採苗の準備と、胞子放出調査を毎日実施し、糸状体管理に万全を期しております。解氷状況によつては早目に試験採苗も実施出来ると考えられます。特にマクレアマノリの人工採苗が今春はじめて出来そうで、その結果に期待しております。

ます。

(ウ) 厚岸における養殖計画についても組合業者の方々と協議しました。具体的な体制と規模についてはまだ問題もありませんので、早目に解決したい考えです。

(2) ワカメ

(ア) ノリと同様に資料整理中で、浜中、根室共に現地でも検討会を行ないました。これらも報告書としてなるべく早目に発表して行きます。

(イ) 根室漁協組で今年実施する沖合保全施設設置事業(単独事業)の具体的な打合せと、業者の方々の懇談会が行われました。規模、漁場の使い方、管理の指導重点的な試験項目については組合の適切な処理によつてすでに業者の説明があり基本的な事項は殆んど決定しました。水試の技術改善試験についても全員の承認を受けました。

(ウ) 浜中、厚岸でも実施計画について、すでに話し合いが行われました。現地の体制、道の委託事業の決定をまつて根室同様計画を具体化したと思います。

◇◇ 加工部 ◇◇

◎加工技術試験調査

(1) 四十年、浜中漁協で行つたコンブの機械乾燥試験資料の整理を行い、また試作製品を等級別に広島の加工業者に送り、品質の検討を依頼中です。(次頁下段につづく)

# 船の動静 試験



## 〳 運行実績 〳

(1) 一月

光洋丸

十二月下旬に函館でドックが終り、帰港  
一月二四、二五日に大津沖よりキリタツ  
ブ沖に至る沿岸海域の海洋観測実施

鯛漁丸(底曳委託試験船)

広尾沖、鯛路沖の底曳漁場調査

第八琴平丸

鯛路沖海谷部周辺のエビ漁場調査

(2) 二月

鯛漁丸(底曳委託試験船)

一月に同じ

第八琴平丸

一月に同じ

(3) 三月

光洋丸

## 〳 運航予定 〳

三月

(イ) 光洋丸

三月上旬に道東太平洋沿岸海域の海洋  
観測

(ロ) 鯛漁丸(底曳委託試験船)

大黒島沖、鯛路沖、広尾沖の底曳漁場  
の調査

(ハ) 第八琴平丸

鯛路沖のエビ漁場の調査

四月

光洋丸

サケ・マス漁場調査のため、四月十日  
頃他の十隻の調査船と共に、道東沿岸  
海域から東経一七〇度付近に至る広範  
な海域に亘つて、海洋観測と魚群の分  
布生態等の調査を実施致します。

(前頁下段からつづく)

◎ 水質調査

鯛路川、霧多布浅海水域の水質調査を行な  
いました。

◎ 技術指導

鯛路市、根室市、羅臼町でコンブ機械乾燥  
スケソ卵塩蔵、ウニ生輸送などについて講習  
会を行いました。また以上の市町と共に標準  
町、浜中町でもこれらの外未利用魚貝類の調  
味加工技術を巡回指導しました。

## 沿岸漁業振興に関する

### 現地懇談会の開催

沿岸漁業構造改善事業の計画第二年度  
を迎えるにあつて、水試でも、各地先  
ごとの問題点を具体的に皆さんと話し合  
つて、正しくつかみ、今後の漁業のあり  
方を考えて行く方針です。魚類資源の開  
発、漁業の方法、浅海養殖技術の発展、  
加工技術の改善向上などの点で皆さんの  
生活に結びついた調査試験を行つてまい  
りたいわけで、このために、今まで最も  
話し合いのおかれていた別海、野付、羅  
臼の各漁協管内を三月二十三日から二十  
九日にかけて巡回し、皆さんと懇談会を  
開催します。なお、これに続いて、各管  
内の問題の多い地帯についても順次この  
ような催しを行つていきます。

## 浅海増殖適地調査報告書第9集

根室支庁・釧路支庁管内

(道水産部発行)

道水産部が昭和二十七年以来行つて来た全道の浅海の海そう、貝類の分布および増殖適地の調査報告書の最終版として、昨年十二月に発行されたものです。この調査は三十六年夏に行つたもので、長い間印刷が関係者から待たれていたものです。内容は羅臼町から音別町に至る全沿岸の一万分の一図面にコンブその他海そう類と、ホツキ、ホタテ、など貝類の分布、および沿岸の水深が記入され、各地先の現況が、のべられております。調査は比較的短期間で行つていたために、概略的な記述にとどまつておりますが、これは種類別の生育範囲を定めることを主目的とした調査だつたため、今後は、この報告書を足がかりとして、それぞれの地先ごとに一層詳しい分布図を作り、また増殖適地を発見するための努力が必要です。この報告書は支庁をはじめ各市町村、組合、普及員の方々に配布されております。なお十勝管内については、すでに第二集として発行されております。

### 寄り昆布

◇第四号をおとどけします。年度末の落ちつかないさなかに編集しましたので、内容はあまり見ごたえしないものになつてしまいました。おゆるし願います。

◇水試だよりは道東の漁業関係者と水試をつなぐ掛け橋と考えておりますが、出来上つたものを見ますと、まだ目的にほど遠いものがあるようは感じます。更に一方交通でなく、読まれる立場から水試に対しての発言を期待しております。

◇別項で報告の通り、去る二月二十四、二十五日、普及員の人々と試験調査について、ざつぱらんな話し合いをしました。年に一、二回は互に羽根を伸ばして、誰にも気がねせずには言いたい放題のことを云い合うことも大事だと思ひます。ほんとうの研究も普及事業もそのような中に芽生えるからです。

◇普及員の人々の現場で身につけられた智識には感心させられるものがあります。これだけの良い仕事がつづもれているのは惜しいと

思う話がいくつかありました。その経験がほんとうに漁民に利用されるためには、具体的な数字が更に加わる必要があると感じます。普及員と水試のつながりを一層強めなければならぬ理由はここにもあると思ひますが、それにはお互の努力と周囲の一層の理解がなければいけないでしょう。

◇前号でお知らせしたように厚岸ニシンはあまり楽観出来ない状態であると予想されましたが、どうやらこの見方は不幸にも本物になりそうです。サケ、マスの日ノ交渉も難航を覚悟で現在熱心に続けられています。去年の全体的な好漁がそのまま今年に継がると言う保証は誰にも出来ないことです。しかし私たちは持てる力を最大限に振つて漁況を一日でも早く、正確に皆さんにお知らせしたい考えです。サケ、マス調査が新年度の第一陣として四月十日から始まります。今年も漁況、海況に注意して良い漁をして下さい。

◇道東の春の名物、流水も今年はどうやら早目に姿を消しそうです。幸いに氷もあまり厚いものが接岸しないので、コンブの被害もあまり大きくなさそうです。先日根室では、今年コンブが良さそうだと云う声を聞きました。各地の前予想はどうでしょうか。◇流水が開けると急に多忙になるものに、最

近春ノリの採苗が加わりました。今年も良い成績があげられるように万全の対策で作業を進めております。

◇二月中旬、厚岸漁協青年部の人々が数名来訪、浅海増、養殖についての事業計画の参考にと、ホッキ、ホタテ、カキ、ノリ、ワカメなどの勉強をして帰りました。青年部活動の計画について相談を受けたことが、今まで一度もなかったもので、大変嬉しいことでした。厚岸だけでなく、どしどしおいで下さい。

◇「めくら蛇におじず」と言つては酷でしようが、厚岸でアワビの養殖をやりたいと言う相談には、ちよつとびつくりしました。何事も正しい基礎知識とはつきりした目的を定めて計画をたてることです。ワカメが養殖出来るならアワビだつて、と簡単に考えることは危険です。

◇道東地域沿岸漁業構造改善の調査第二年度を迎えます。今年各地先ごとの問題を正確にとらえて、効果的な実施設計をする段階ですが、この点についてまだ水試の努力が足りない面が多く、また皆さんとのへだたりも大きいようです。今年出来るだけ足まめに皆さん方の所に出かけて参りたいと思います。

## 漁海況の放送について

漁村の皆さん、北海の地にも万物の躍動する四月がやつてまいりました。山野の残雪に反射する光線もその強さを増し、海原の波もどこかその青さに輝やきを含んで来たように思われます。

釧路水試では、今まで皆さん方に重要な魚の漁模様と、海の様子を印刷物にして旬報でお知らせして来ましたが、四月の下旬からこの他に毎週木曜日の午後六時五十分から二分間ラジオで、また午後六時五十七分から一分間テレビで、サケ、マス、サバ、サンマ、スルメイカなどの漁模様と、海の様子をNHKの釧路支局から放送する予定になりました。このようなことにつきましては、全国の関係者が従来から非常に希望しておりましたので、この仕事を充実することによつて水産にたずさわる人々に、今より少しでもお役に立てば幸いです。なお将来は沿岸の色々な魚についてもこのような放送をしたいと思つております。

(漁業資源部)

## 釧路水試だより

第 4 号

発行月日 昭和41年3月25日

編集発行人 桜井基博

発行所 釧路市浜町16

道立釧路水産試験場

印刷所 釧路綜合印刷株式会社